

氏 名	永 山 洋 一 なが やま よう いち
学位の種類	医 学 博 士
学位記番号	論 医 博 第 612 号
学位授与の日付	昭 和 50 年 9 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	尿中 pregnanediol, pregnanetriol 及び 17-ketogenic steroid の臨床的研究

論文調査委員 (主 査) 教授 鳥塚莞爾 教授 村地 孝 教授 深瀬政市

論 文 内 容 の 要 旨

健康成人, アジソン病患者, クッシング症候群患者, 副腎性器症候群患者及副腎癌患者について, ACTH 負荷前後及負荷中の尿中 pregnanediol, pregnanetriol 及 17-ketogenic steroid とその分画の排泄量を測定した。

健康成人に於いては, ACTH 刺激に依る排泄の増加を見ると 17-ketogenic steroid が最も高い増加率を示した。ACTH 刺激に依り pregnanediol 対 17-ketogenic steroid 比は2分の1に減少した。このことは ACTH 刺激に依り progesterone から 17 α -hydroxylation を受けるものが多くなることを示唆する。又 ACTH 刺激に依り pregnanetriol 対 11-oxygenated 17-ketogenic steroid 比も減少した。このことは 17 α -hydroxyprogesterone から cortisol へと進む経路が ACTH 刺激に依り増加することを推定させる。

アジソン病では ACTH 刺激に依っても cortisol の産生は増加しない。しかし pregnanediol 排泄は1, 2の例で増加した。これはアジソン病例でも ACTH 刺激に依り cortisol の生合成が途中迄は増加することがあることを示すと思われる。

ACTH 刺激に依る各ステロイド排泄の変化と云う面よりクッシング症候群の腺腫例と過形成の鑑別を試みたが不可能であった。

副腎性器症候群例では basal level に於ける pregnanediol, pregnanetriol 及 17-ketogenic steroid の排泄はすべていずれの例に於いても対照より高値を示した。そして ACTH 刺激に依り各ステロイドは増加した。

pregnanetriol 対 11-oxygenated 17-ketogenic steroid 比を見るとクッシング症候群の2例ではいずれも終始対照に比べ低い値をとり, 副腎性器症候群の2例ではいずれも終始対照より高い値であった。これは pregnanetriol 排泄の多少に依る結果である。

論文審査の結果の要旨

副腎皮質の糖質コルチコイド生合成の解明のため、主として副腎疾患者に ACTH 負荷時の尿中の progesterone の主要代謝物の pregnanediol (p-diol), 17 α -hydroxyprogesterone の主要代謝物の pregnanetriol (p-triol) および 17-ketogenic steroid (17KGS) と、その分画の 11-oxygenated 17-ketogenic steroid (11-oxy 17-KGS) の排泄量を測定し、健康成人のそれと比較した。まず測定法の検討を行ない既報の測定法を改良して、80-85%の回収率の測定法を考案した。健康成人では ACTH 刺戟により 17-KGS が最も高い増加率を示し、p-diol 対 17-KGS 比は $\frac{1}{2}$ に減少し、p-triol 対 17-KGS 比の減少が認められた。アジソン病では ACTH 刺戟によっても cortisol の産生は増加せず、しかし p-diol 排泄は1—2例で増加し、ACTH 刺戟により cortisol の生合成の途中までの増加が考えられた。クッシング症候群では各ステロイド排泄の変化の面では、腺腫と過形成の鑑別は不可能であり副腎性器症候群では resting level が高く、ACTH 刺戟により更に増加した。

以上の研究は副腎疾患の副腎皮質の糖質コルチコイド生合成の解明に寄与するところが多い。

よって、本論文は医学博士の学位論文として価値あるものと認める。